

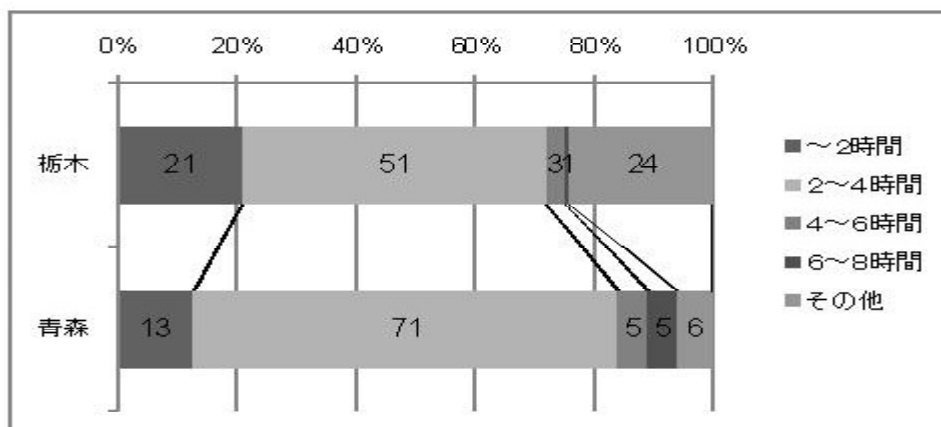
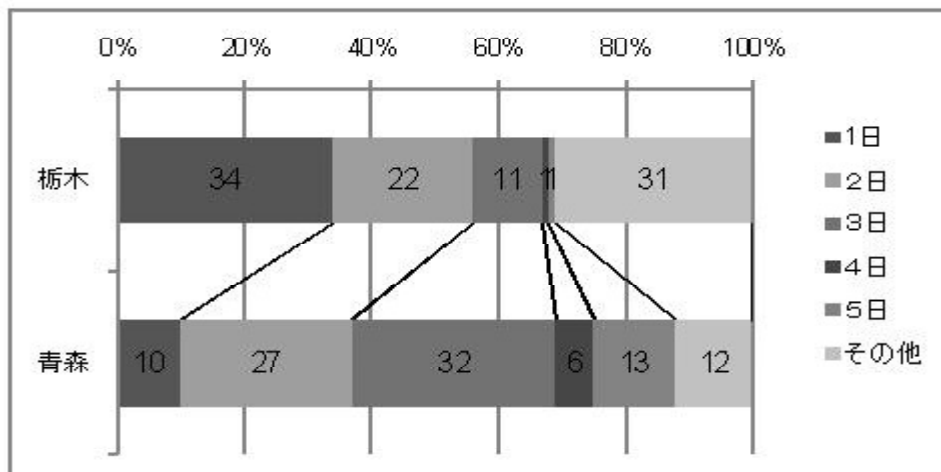
3 コーディネーターアンケート調査結果と分析・考察

栃木県、青森県内の学校支援地域本部事業を実施している市町村の地域コーディネーターに調査票にて調査した。(参考資料P.59~P.60) 栃木県は95名、青森県は62名の回答を得られた。

(1) コーディネーターについて

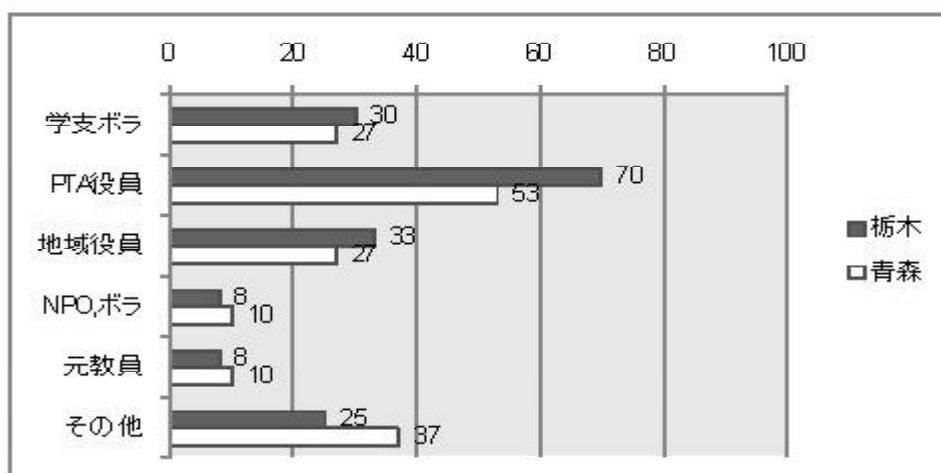
① 活動日数と活動時間

問 1週間の活動日数と1日の活動時間を記入してください。



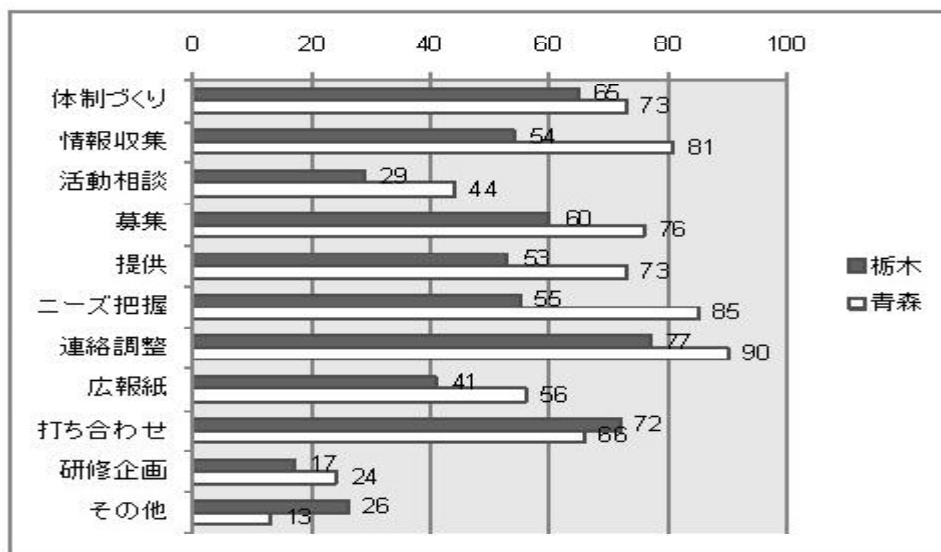
② 経歴

問 コーディネーターになる前の活動で該当するものすべてを選んでください。



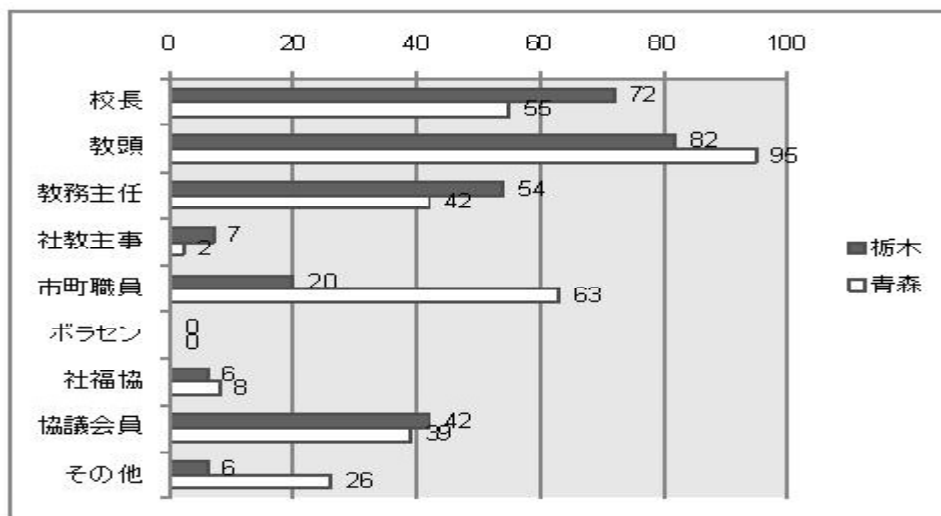
(2)活動の実際

①具体的な活動（複数回答）



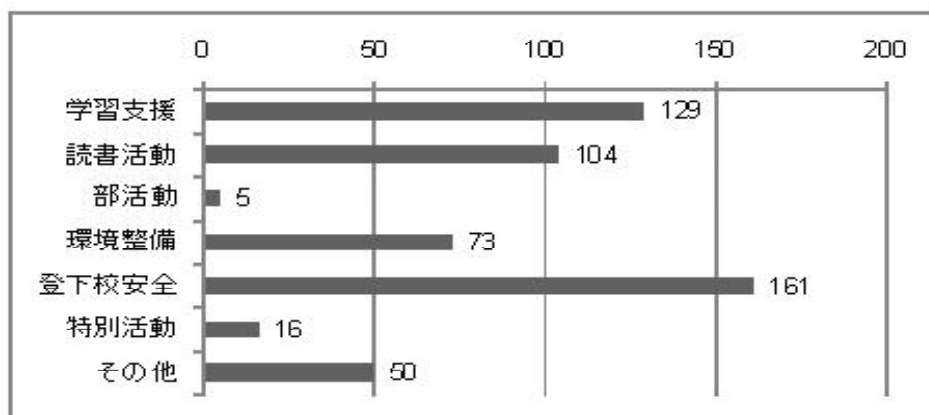
②相談相手

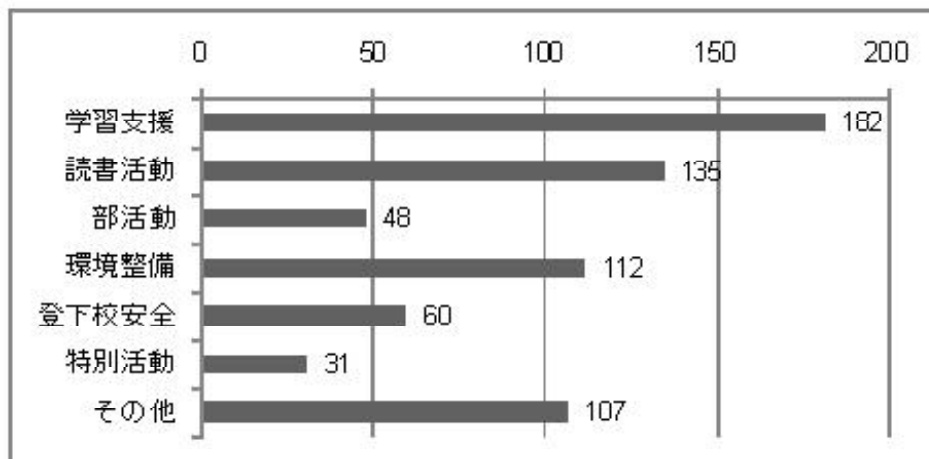
問 コーディネーターとして活動を推進する際、相談する相手の方に○をつけてください。（複数回答）



③コーディネートした活動内容（件数）

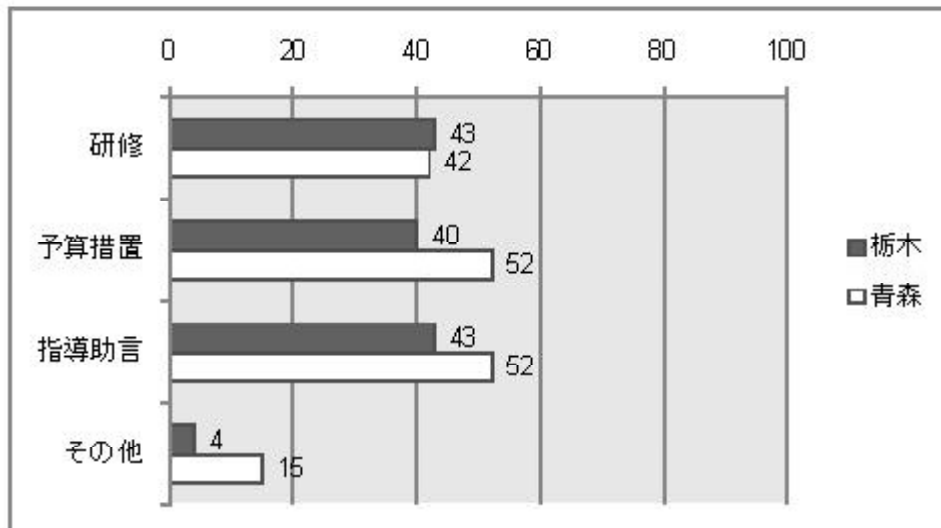
[栃木県]





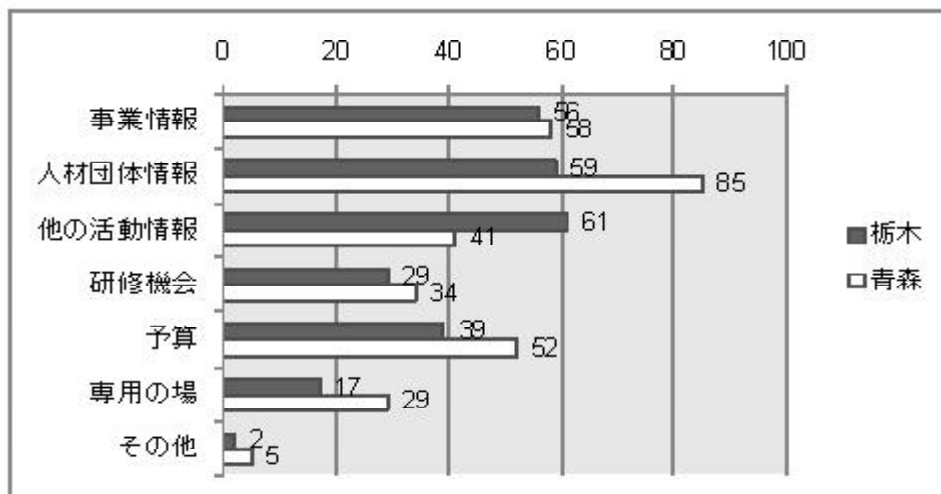
④行政とのかかわり（複数回答）

問 行政に期待することで該当するものに○をつけてください。



⑤活動上必要なこと（複数回答）

問 活動上必要なことで該当するものに○をつけてください。



(3) コーディネーター回答一覧：栃木県

No.	学校種	活動拠点	日数	時間	前職・経験	コーディネート活動の概要	成 果	課 題
1	中学校	被服準備室	2	2~3	元教員	・地域の各種団体、保護者に向けて説明会を実施、登録名簿の作成 ・教職員に登録名簿を配布	・より美しい花壇になり、生徒は植栽に関する知識を得た。 ・学校見学会などに参加してもらうことで、学校がより身近に。	・教職員の本事業に関する理解・関心がまだ薄い。 ・コーディネーター同士の情報交換、情報共有の場が必要
2	小学校	職員室			現PTA	・依頼により該当ボランティアへの連絡 ・活動内容のデータ整理	・英語活動の際、多くの児童にかかわり、児童の学習意欲が増した。 ・児童が学校外で地域の方々にあいさつをするようになった。	・教職員と時間が合わずじっくり打合せができない。 ・連絡調整のための時間確保が難しい。
3	小学校	地域活動室	3	2	学支ボラ PTA役員	・地域協議会に参加し、学校側のボランティアの依頼状況を確認する。 ・要望に応えられるよう、地域のボランティアを発掘する。		・コーディネーター同士の情報交換の場を設けてほしい。
4	小学校	相談室	3	4	PTA役員 地域役員	・地域協議会に参加し、学校側の要望を把握 ・ボランティア募集のチラシ作成、地区全世帯に回覧配布。11月にボランティアの説明会・顔合わせ		・ボランティアが活動する際のマニュアルなどがあると活用できる。
5	小学校	相談室	2	3		・ボランティア人材情報の収集・データベース化 ・活動を希望する人にボランティア心得などのVTR等を見せた研修の実施		
6	小学校	視聴覚準備室	2	3	学支ボラ PTA役員 地域役員	・地域協議会に出席し、依頼状況の確認 ・ボランティア募集中。地域やPTAに向けての広報紙を作成中	・教科書の授業ではできない地域の人のふれあいの時間を設けた。 ・顔見知りになったボランティアと子どもたちが挨拶を交わすようになり、防犯にも役立っている。	・他のコーディネーターの活動の様子を知りたいので、情報交換の場がほしい。
7	小学校	PTA会議室	1	3	PTA役員	・ボランティアの現状を把握しながら、学校の要望を調査したり、他校のチラシを参考にしながらボランティア募集のチラシを作成中		・他のコーディネーターの活動の様子を知りたいので、情報交換の場がほしい。 ・学校の保護者の支援を増やす。
8	小学校	小会議室			元PTA役員	・地域協議会に参加 ・地域の方の活動や要望・願いなどを情報収集し、コーディネートする必要があるかどうか検討中		・今まで組織がなくても学校支援のための活動が機能していたところに、組織を持ち込むのはどうか懸念している。 ・学校が積極的にならない以上、動きがとれない。
9	中学校	中学校	2	3	元教員	・地域協議会に参加し、学校の要望を確認、ボランティアの募集、打合せなど連絡調整		
10	中学校	中学校	2	3	PTA役員	・同上		
11	中学校	中学校	2	3	地域役員	・同上		
12	小学校	校長室	2	3	地域役員			
13	小学校	小学校	月1	2	元自治会長			
14	中学校	校長室	1	1	元教員	・学校側と定期的に会合を持ち、依頼状況を確認、該当するボランティアと打合せ等の調整 ・ボランティア募集と人材バンクづくりに向け、チラシを作成、配布		・登下校安全確保について、自治会と育成会の連携を目指しているがなかなか連絡調整が難しい。
15	中学校	校長室	1	1	民生委員			
16	小学校	校長室	1		地域役員 元PTA役員			
17	小学校	地域活動室	3	3~4	学支ボラ PTA役員	・サポーター会議で学校や地域の必要としている依頼状況を確認 ・活動の後のお茶入れ ・月別の活動状況のデータ入力	・プール指導、書道、家庭科など教員だけでは指導が不足する部分のサポートにより、指導が充実 ・読書量や図書館利用の増加	・コーディネーター同士の情報交換の場があるとよい。 ・コーディネーターが地域に認識されていないような気がする。
18	小学校	地域活動室	3	3~4	PTA役員	・同上	・同上	・同上
19	小学校	校内地域コミュニティセンター	5	7	地域各種団体事務		・子どもはもちろんのこと、親の教育ができる場合があるということを知らされた。	・募集した人数より多くの希望者があり、調整が大変だった。
20	小学校	PTA会議室	1	3	PTA役員 地域役員	・地域協議会へ参加し、依頼を確認	・よりPTAが学校教育の現場に立ち会えるようになった。 ・コーディネーターがいることで、行事調整が円滑になった。	・調整のみで担当教員とコミュニケーションがとれなかった。 ・コーディネーターの仕事が学校側の仕事かわからないことが多かった。
21	小学校	生活科室	1	2	PTA役員	・地域協議会に参加し、学校の要望を確認、ボランティアの募集、打合せなど連絡調整、広報紙の作成	・授業の目標がボランティアの参加により達成できた。 ・地域でボランティアと子どものあいさつが増えた。	・依頼の仕方や打合せのシステム化 ・他のコーディネーターの活動状況を知りたい。
22	小学校	PTA会議室	1	3	学支ボラ PTA役員 地域役員	・地域協議会に参加し、学校の要望を確認、ボランティアの募集、打合せなど連絡調整、ボランティア募集	・教材作成をした結果、その時間は先生と子どもの時間ができた ・読み聞かせでは、本に興味をもつ子が増えた。	・講習会よりも、できれば担当の方が学校を回って指導していただくと助かる。
23	小学校	公民館会議室	1	4	地域役員	・週1日放課後、学校へ訪問し依頼事項の確認、学校担当者とコーディネーター、ボランティアと打合せ、活動後、反省・感想の記入とまとめ		

No.	学校種	活動拠点	日数	時間	前職・経験	コーディネート活動の概要	成 果	課 題
24	中学校区	公民館	1	4	学支ボラ ボランティア	・ボランティア依頼、実施の流れの検討、募集チラシの検討、ボランティア登録者に説明会		
25	小学校	地域交流教室	2~3	2~5	P T A 役員	・学校と必要なボランティアについて協議、回覧板・ポスターによる募集、説明会実施、活動、検証、次年度の計画 ・地域協議会たよりの作成、地域協議会主催教育講演会の企画運営	・ほこりだらけの資料室清掃やボトルキャップ洗浄など、大人であればできる作業で協力した結果、先生方の負担軽減につながった。 ・今まで学校でこんな事ができたという思いがあった人たちの窓口となることができた。	・ボランティアの存在をもっと先生方に知ってもらい、上手に活かしてもらおう。 ・先生方と話をして何が必要かを知る。 ・人材の確保が最重要課題。ロコミを最大限に活用
26	小学校	職員室	3	3	学支ボラ	・人材の確保、要請内容の確認、ボランティアに説明、必要に応じて活動を見守る、ボランティアと担任から感想を聞き取り、参考とする。	・授業において児童の足並みが揃いやすくなった。 ・なかなか踏み出せなかった保護者が活動に参加できるようになった。 ・これまで副校長が行っていた連絡調整を引き受けたため、副校長の事務量の軽減が図られた。	・学習支援の要望が出やすいように学習内容を把握し、話し合えるようにしていきたい。 ・今後も地域コーディネーターの位置づけを確立してほしい。 ・ボランティアが楽しく活動できるよう、工夫していく。
27	小学校	職員室	3	3	元教員	・同上	・同上	・同上
28	小学校	P T A 室	1	3	地域役員	・地域協議会に参加し、学校の要望を確認、ボランティアの募集、打合せなど連絡調整		・コーディネーター同士の情報交換がほしい。
29	小学校	地域活動教室	2	2	学支ボラ 地域役員	・地域協議会に参加し、学校の要望を確認、ボランティアの募集、打合せなど連絡調整、広報紙の作成	・ボランティアと子どもたちが顔見知りになり、地域の方と交流できるようになった。	・他のコーディネーターの活動状況を知りたい。
30	小学校	校長室・ふれあい広場	1	3	P T A 役員 地域役員	・地域協議会に参加し、学校の要望を確認、ボランティアの募集、打合せなど連絡調整、ボランティア募集	・地域学習の充実と深化 ・地域と学校の情報の共有化が図られ、地域連携行事の連絡調整が円滑になった。	・仕事の都合と学校の日課調整が難しい時がある。 ・地域・学校・行政がリアルタイムで情報を共有することが難しい。
31	小学校	校長室・ふれあい広場	1	3	地域協議会 事務局	・協議会会議の準備、資料の作成 ・様々な地域の情報を学校と共有している。	・同上	・準備の時間を確保するのが難しい。
32	小学校	公民館	2	5	地域役員	・まちづくり協議会など各種団体と協調するために、会議に積極的に参加	・地域性の把握により地域の協力が得やすくなった。	・学校長の協力、P T A の協力が必須 ・予算は減額もしくは廃止をしない
33	中学校	会議室	活動に沿った時間		P T A 役員	・地域協議会の企画・運営 ・地域、学校側の具体的な要望を把握し、研修会の企画・立案	・研修に地域の方と生徒と一緒に参加し、コミュニケーションがとれるようになった。 ・地域の方に学校に興味をもってもらえる機会になった。	・先生と綿密に話し合う時間がとれない。 ・予算の執行を早くしてほしい。 ・コーディネーターとしてどこまで仕事をするのか線が引きにくい。
34	小学校	第1会議室	2	2	P T A 役員	・学校とボランティアとの連絡調整 ・ボランティアの募集とバンク作成	・これまで行っていた連絡調整の時間を打合せや教材準備等につかうことができた。	・コーディネーターという立場が先生方にあまり把握されていないため、連絡調整に時間が必要
35	中学校区	資料室	1	4	P T A 役員	・学校からの依頼を確認し、担当の先生から具体的な内容を把握、ボランティアとの連絡調整 ・活動広報のための資料作成 ・各種団体への働きかけ	・ボランティアにより、合唱練習では子どもたちがより明確な目標を持ち、専門的なアドバイスがいただけた。	・教員とじっくり打合せができない。活動が十分に先生方に理解されていない。 ・ボランティアとの連絡調整の時間確保が大変である。
36	小学校	印刷室	必要に応じて	3	P T A 役員 ボランティア	・地域協議会に参加し、地域のボランティア情報を把握し、学校へ提供 ・ボランティアバンクづくり	・家庭科でミシンの使い方を効率的に指導でき、子どもの技能も向上した。	・学校のニーズにあうようなボランティアの確保が難しい。
37	小学校	印刷室	同上	3	P T A 役員	・同上	・同上	・同上
38	小学校	相談室	1	2	P T A 役員	・地域協議会が企画したイベントの講師との打合せ、案内の作成配布、参加者の募集	・学校・家庭・地域が協力し合い、学校教育や行事に関心を示すようになった。	・コーディネーター同士の活動の様子を知りたい。 ・パソコン作業が不慣れ
39	中学校区	小学校			元教員			
40	小学校	小会議室	2	2	P T A 役員	・地域協議会に参加し、学校の要望を確認、ボランティアの募集、打合せなど連絡調整	・ボランティアと子どもたちの仲が密になり、交流が広がった。	・先生方と打合せをする時間がなかなかとれない。
41	中学校区	町教委生涯学習担当	2	6	学支ボラ	・連絡調整の流れを検討中 ・ボランティア募集とバンクづくりに向け、チラシを作成中		・情報交換の場がほしい。
42	中学校	校長室			P T A 役員 地域役員	・連絡調整の流れを検討中 ・各種団体にボランティアとしての協力を依頼中		
43	小学校	P T A 会議室	3	2	学支ボラ 地域役員	・ボランティアを募集し人材バンクに登録 ・依頼により紹介	・家庭科室、理科室の環境整備ができた。 ・ボランティアが楽しいとやりがいを感じている。	・学習支援ではどの程度介入しているのか難しい点があり、担当の先生との打合せが重要である。 ・ボランティアが活動する際の留意事項を伝える場の企画
44	小学校	P T A 会議室	不定期		P T A 役員 地域役員 ボランティア	・同上	・同上	・同上
45	小学校	P T A 会議室	3	2	P T A 役員 地域役員 協議会事務局	・同上	・同上	・同上
46	小学校	P T A 会議室	3	2	P T A 役員 地域役員 協議会事務局	・同上	・同上	・同上

No.	学校種	活動拠点	日数	時間	前職・経験	コーディネート活動の概要	成 果	課 題
47	中学校区	地区内小学校	1	2	P T A 役員	・連絡調整の流れを検討中		
48	小学校	P T A 室	1	3	P T A 役員	・地域協議会に参加し、学校の要望を確認、ボランティアの募集、打合せなど連絡調整 ・ボランティア活動後の「ふりかえりカード」作成	・資料作りボランティアによる道徳資料は授業参観で評判がよかった。 ・ボランティアと子どもが地域でありさつがしっかりできるようになった。	・コーディネーターの責任者を決めておくとうい。 ・謝金の割り当て方の指導
49	中学校	会議室	1	3	P T A 役員	・協議会の企画運営、学校と地域の要望を把握し研修会を企画立案し、参加の要請をする。	・そば打ち研修会を通して、地域住民とのかかわりがとれるようになり、地域の方々も交流を深めた。 ・地域の方々も学校行事に関心をもつようになった。	・一部の先生方だけではなく、全職員に活動や組織を理解してほしい。 ・行政は地域に情報を流してほしい。
50	中学校	会議室	1	3	P T A 役員	・同上	・同上	・同上 ・コーディネーターの仕事内容や活動の範囲がわからない。
51	中学校	会議室	1~2	3	P T A 役員	・同上	・同上 ・教員の負担が軽減し、子どもと向き合う時間が増えた。	・同上 ・学校側の窓口が一本化されていない。
52	中学校	会議室	不定期		P T A 役員	・同上	・同上	・同上 ・予算の執行を早く。
53	中学校	会議室	不定期		学支ボラ P T A 役員	・同上	・同上	・同上
54	中学校	会議室	不定期		P T A 役員	・同上	・同上	・同上 ・地域に情報を流していただきたい。
55	中学校	会議室	1	2~3	P T A 役員	・同上	・同上 ・地域の方が子どもたちへの関心を深めた。	・同上 ・先生方と打合わせの時間がとれない。
56	中学校	会議室	不定期		P T A 役員	・同上	・同上	・同上 ・コーディネーターとしての仕事の情報がほしい。
57	小学校	小会議室	2	2	学支ボラ P T A 役員	・地域協議会に参加し、学校の要望を確認、ボランティアの募集、打合せなど連絡調整 ・保護者、地域に向け広報紙作成	・ボランティアと子どもが地域で顔を合わせた時挨拶を交わすようになり、お褒めの言葉をいただいた。	・コーディネーター同士の情報交換の場を設けてほしい。
58	小学校	司書室	2	3	P T A 役員	・地域協議会開催に向けて準備 ・学校側の具体的な要望を把握し、ボランティアとの調整 ・人材バンクの作成		・多くの人と情報を共有していきたい。
59	中学校区	資料室	1	4	P T A 役員	・学校からの依頼を確認し、担当の先生から具体的な内容を把握、ボランティアとの連絡調整 ・活動広報のための資料作成 ・各種団体への働きかけ	・合唱練習では、ボランティアにより、子どもたちがより明確な目標をもてるよう専門的なアドバイスがいただけた。	・教員とじっくり打合せができない。活動が十分に先生方に理解されていない。 ・ボランティアとの連絡調整の時間確保が大変
60	小学校	地域協議会室	1	3	P T A 役員	・準備・検討中	・学校の授業だけでは無理なことを楽しく学ぶ場ができた。	・ボランティアの数を増やしていきたい。
61	小学校	P T A 地域活動室	1	4	学支ボラ P T A 役員	・地域協議会に参加し、学校の依頼状況を確認、地域の各種団体にボランティアとしての協力依頼と情報提供をお願いする。	・花壇や樹木の整備をお願いしたところ、学校環境が整ってきた。 ・子どもの教育に地域も協力する気持ちが盛り上がりつつある。	・先生とじっくり話し合ったり、打合せをする時間がない。 ・情報交換の場がほしい。
62	小学校	P T A 会議室	1	3	学支ボラ P T A 役員 地域役員	・地域協議会に参加し、学校の依頼状況を確認、ボランティア募集、連絡調整、ボランティアの要望を学校へ伝える。	・教材作成支援により授業に貢献できた。 ・子どもにとっても成果となり地域の方にも励みになっている。	・学校から具体的な要望があると活動しやすい。 ・学校としての特徴を出したい。
63	小学校	小学校	1	2	P T A 役員 地域役員	・地域協議会に参加し、学校の依頼を確認、具体的な要望を担当から把握し、ボランティアと打合せ	・生活科の授業では、ボランティアの学習支援により子どもたち一人ひとりに指導ができた。	・先生方に活動が認識されていない。 ・ボランティアの確保
64	小学校	小学校	1	2	学支ボラ P T A 役員	・同上	・同上	・同上
65	小学校	小学校	1	2	学支ボラ P T A 役員	・同上	・同上	・同上
66	中学校	学習準備室	2	3	P T A 役員 地域役員 ボランティア	・地域協議会に参加し、学校の依頼を確認、具体的な要望を担当から把握し、ボランティア募集・調整	・地域でボランティアと子どもの挨拶が増えた。	・情報交換の場がほしい。
67	中学校				P T A 役員 元教員			
68	中学校	会議室	1	3	学支ボラ P T A 役員	・流れを検討中 ・地域の各種団体に協力依頼と情報提供をお願いしている。		・ゼロからの出発なので不安がある。
69	中学校	会議室	3	3	学支ボラ 地域役員	・学校側と検討中		
70	小学校	協議会事務局 室(校内)	1	3	学支ボラ P T A 役員	・12月までに行った活動を整理しながら、今後の連絡調整の流れを検討中	・夏休みの作品整理支援では、教員の負担が軽減され、参加したボランティアも教員理解につながった。 ・趣旨を理解してもらうために行ったイベントで、普段学校と縁のなかった地域住民が子どもと接する機会をもてた。	・今年度はイベント的になってしまったが、今年度かかわってくれた人々への説明。 ・諸活動のための時間確保。

No.	学校種	活動拠点	日数	時間	前職・経験	コーディネート活動の概要	成 果	課 題
71	中学校	校長室	1	1	P T A 役員	・地域協議会に参加し、学校の依頼状況を確認、該当するボランティアを調査中 ・各種会合時に制度を説明、人材バンク登録を呼びかけている。	・例年かなりの日数をかけて教職員だけで行っていた落ち葉さらいは、ボランティアに依頼した。	・年度当初から支援計画をたてておく調整しやすいのでは。 ・制度に対する研修の機会を増やすべきではないか。
72	中学校	中学校学区	必要に応じて		元教員	・組織作り、コーディネーターについて研修、学校の教育内容について学校側から説明を聞く。		
73	中学校	事務室	2	3	P T A 役員	・流れを検討中 ・ボランティア募集とバンクづくりに向けチラシ作成中	・子どもたちの経験や興味が広がった。	・先生方とじっくり話し合ったり打合せをする時間がとれたらよい。 ・情報交換
74	中学校	事務室	2	3	P T A 役員	・同上	・同上	・小学校とちがいで、授業時間の中に入るのが難しい。
75	小学校	会議室			地域役員		・地域との連携で運動会を実施 ・地域と協働で実施している祭りへの参加団体が拡大	・学校と情報交換を密にする。 ・各地域の活動内容を知らせてほしい。
76	小学校	P T A 室	1	3	P T A 役員 ボランティア	・地域協議会で現状把握し、必要があれば関係団体との連絡調整を行い、支援を行う。	・子どもたちに体験活動を提供できた。	・行政の窓口が多くてわかりにくい。
77	小学校	職員室	不定期		P T A 事務	・従来の活動をどうコーディネートしていくか、ボランティアの拡充に向け検討中	・校外学習において児童の安全確保に役立った。 ・安全ボランティア自ら会議を開いて活動を広げている。	・学校や先生方の中に入ることでより手間をかけることがある。
78	中学校	事務室	2	3	元P T A 役員 地域役員	・協議会だより作成、ボランティア募集のチラシ、アンケート作成	・ボランティアと子どもと一緒に活動して挨拶を交わすようになった。	・コーディネーターとしての役割を先生方に理解してもらえない。 ・地区内の情報交換
79	小学校		3	3	地域役員			
80	中学校区	公民館	2	1	社会教育指導員	・人材バンクの作成	・ボランティアと子どもと一緒に活動して挨拶を交わすようになった。	
81	中学校区	町体育館事務室・談話室			P T A 役員 地域役員 団体代表	・定期的に学校側と意見交換 ・本部内の担当校の違うコーディネーターとの情報交換を行う。	・ボランティアさらにニーズにあったボランティアの発掘 ・学校と地域が一体になり地域の教育力の向上	・学校により温度差がある。学校とコーディネーターの情報交換ができるとよい。 ・校内に自由に使える場所や掲示コーナーがあるとよい。
82	中学校区	小学校	1	2		・同上		・学校がコーディネーターを有効活用していただけるとよい。
83	中学校区		随時		学支ボラ 地域役員 学校評議員	・定期的に訪問し学校側の要望や予定を聞く。生涯学習課職員から依頼を受け、学校側と打合せ後、ボランティアに依頼、調整	・総合学習の授業で体験活動を取り入れたことで関心が高まった。講師や関係機関への依頼を学校がやらずに済む。	・実施日程が1ヶ月くらい前にわかっていると準備しやすい。 ・ボランティアの確保
84	中学校区		2~3	2	P T A 役員 地域役員	・学校から依頼を受けたら連絡を取り合い要望に応える。 ・自分自身がボランティアに行った時、学校側と連絡をとっている。	・先生方の理解が得られてきた。	
85	中学校区	中学校1小学校			学支ボラ P T A 役員 地域役員 元教員	・教諭からの依頼にボランティアを紹介、連絡調整、必要に応じて打合せに参加、実施後事務局へ報告 ・ボランティアへの礼状作成	・教諭の感想を受け成果をみているが、指導支援に活かされたと思える。 ・地域の人たちが進んで生き生きと支援に参加している。	・学校とボランティアの円滑な人間関係が保てるよう努めたい。 ・ボランティアの交流の時間
86	中学校区	中学校1小学校	随時		学支ボラ P T A 役員 地区役員	・定期的に学校側と意見交換 ・本部内の担当校の違うコーディネーターとの情報交換を行う。		
87	小学校	P T A 室	2~3	4	学支ボラ P T A 役員	・地域協議会に関する仕事中心、流れは検討中	・下校時の児童の安全確保ができるようになった。	
88	小学校	P T A 室	2~3	4	P T A 役員	・同上	・同上	
89	小学校	P T A 室	2~3	4	P T A 役員	・同上	・同上	
90	小学校	会議室	2	3	学支ボラ 地域ボラ	・安全パトロールについて検討し、ボランティアと学校側の連絡調整	・読み聞かせでは、読書に対する意識が高まった。 ・地域と子どもたちの交流	・ボランティアの確保 ・連絡調整をスムーズに
91	小学校	会議室	1	2	P T A 役員 地域役員	・ボランティア募集済み ・安全パトロール隊を組織活動開始		
92	小学校	会議室 地域開放室	1	3	P T A 役員	・地域協議会だよりとボランティア募集のチラシ作成	・郷土資料室の整備 ・防犯パトロールにより安全確保	
93	中学校区	資料室	1	4	P T A 役員	・学校からの依頼を確認し、担当の先生から具体的な内容を把握、ボランティアとの連絡調整 ・活動広報のための資料作成 ・各種団体への働きかけ	・ボランティアにより、合唱練習では子どもたちがより明確な目標を持ち、専門的なアドバイスがいただけた。	・教員とじっくり打合せができない。活動が十分に先生方に理解されていない。 ・ボランティアへ事前に留意事項などを伝達する時間の確保
94	中学校区	資料室	1	4	P T A 役員	・学校からの依頼を確認し、担当の先生から具体的な内容を把握、ボランティアとの連絡調整 ・活動広報のための資料作成 ・ボランティア入校に際しての各種用紙作成	・職業を持ちながら合唱を楽しむ方たちと接することで、地域の人との人間関係や生き方を知ってもらいたい。 ・ボランティアにも地域とのかかわりの一歩になってほしい。	・ボランティアがボランティアの域を超えてしまいそうになることがある。 ・学校側の活動に対する認識が不足しているのでその溝をうめたい。
95	小学校	地域開放室	0.5	3	P T A 役員 地域役員 子ども教室関係者	・地域協議会に参加し、依頼状況を確認、連絡調整 ・活動状況の広報	・授業内容に変化が見られる。 ・子どもがボランティアに声をかけ、会話をするようになった。 ・ボランティア同士の交流が深まった。	・どこまで活動を広げてよいのか。 ・研修に欠席の場合、内容を知らせてほしい。

コーディネーター回答一覧：青森県

No.	学校種	活動拠点	日数	時間	前職・経験	コーディネート活動の概要	成 果	課 題
1	教育委員会	町立図書館	2~3	4~6	元教員	<ul style="list-style-type: none"> ・社会教育主事、各実施校教頭との連携をとる。 ・次年度の計画は実施校と早めに連絡調整して、ボランティアとの連携を密にして、充実した活動にしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の住民が頻りに校内に出入りするようになり、教師・児童とも従来とは違う雰囲気の中、あいさつ等交流の機会が多くなった。また、地域住民への関心も深まってきていること。 ・教育現場を取り巻く課題について、地域全体で関心を示し、話題にしたり、積極的に支援に参加したりする意欲を示し始めたこと。積極的に協力する人材が発掘できたこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校にはいろいろな背景があり、その把握には時間がかかった。2校並行して行われる事業だが、最初から同じ目標を立てて実施してきたが、途中で路線を変更せざるを得なかった。 ・同時に実施されている学校支援との関連事業の情報の明確化と、重複する領域の連携や調整が必要
2	地区学校支援地域本部	公民館	2.5	4	学校支援コーディネーター 子育てサポーター	<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会と学校へ出向き、事業説明と協力・活用を教職員にアピールする。 ・地域教育協議会では、事業状況、旬の町情報や意見、展望、要望が話し合いとなる。 ・学校側からの活動希望一覧にそってボランティアとの打合せ、段取り、調整を行う。具体的に動くことにより、活用の仕方や参加者の意識を育てたい。 ・広報紙や支援チラシだよりを作成し、毎戸配布、掲示し活動の浸透を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアがかかわることで学校と地域が共同する形がみえる。 ・校外学習に対応することで、教職員の負担が軽減されることと、より発展した授業が考えられる。 ・学校外での活動から、身近なことでボランティアに参加できることがわかった。 ・今年度の活動を振り返り、次回への、興味がうかがえる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校との打合せや話し合いを迅速、簡潔にしたい。 ・年度始めから計画的に動きたい。 ・活動の予算の咀嚼をはっきりしてほしい。ころころ変化は困る。 ・ボランティアで活動する際の留意事項や注意することを伝える場面を作りたい。
3	地区学校支援地域本部	公民館	2.5	4	子供教室安全管理員	同上	<ul style="list-style-type: none"> ・校長先生はじめ、学校側がとても快くコーディネーターの存在を理解していただけたのでスムーズに学校に出入りできるようになり、子どもたちからも声をかけてもらえるようになった。 ・地域の方々ボランティアを終えた後、「こんなことなら私にもできるので、また機会があれば参加します。」との声に子供たちを見守る地域の方が増えてきたなど実感した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・来年の学校の予定にはコーディネーターの時間を組み入れてもらえるよう、早くから打合せできればよいのではないか。 ・すべてがボランティアというのは難しいので、いくらかの予算を。
4	地区学校支援地域本部	町教育事務所	2	4	学支ボラ地域役員 元教員	<ol style="list-style-type: none"> 1.部活指導 ①学校からの要請→個人で受ける→実践 ②父母からの要請→監督、学校からの許可→実践 2.読み聞かせボランティア 父母からの要請→学校との交渉と学校の許可を得る→ボランティアの募集と会員の話し合い→学校との調整→実践 	<ul style="list-style-type: none"> 先生方が忙しいときに、いろいろな面で大いに役立っていると思います。 ・学校では窓口を1つにして対応してくれている。 ・呼びかけに対して、応じてくれる方がいた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人材が少ない。地域の方へコーディネーターとしてのPRが必要
5	地区学校支援地域本部	公民館	2	4	PTA 役員	<p>コーディネーター → 地域の橋渡し → 小学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアに用件等のチラシを配布 ・地域内に情報やボランティアの活動状況を知らせる。 ・学校は随時学校通信等にボランティアの活動を掲載する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・三世代で同居する児童は少ない。子どもたちがお年寄りから、生活の知恵や工夫を学ぶ機会にしたい。 ・子どもがいないと学校に行くことはなかったが、住民同士の交流になった。 ・今まで以上に子どもたちがボランティアの顔を見ると大きな声で挨拶を交わすようになりました。 ・単にボランティアをするだけでなく、学校で児童と窓ふきをするなど一緒に活動できたらよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・先生方とじっくり話し合ったり、打合せをしたりする時間がとれない。 ・他の活動の様子を知りたく研修会等で意見交換しても、あまり参考にならない会話が多いように思われます。 ・ボランティアに登録しなくても協力してくれる人が多く、どうやって登録してもらったらよいか考える。
6	中学校	公民館、町教育委員会	3	3	地域役員 PTA 役員 NPO 子育てサポーター	<ul style="list-style-type: none"> ・学校からの依頼はないので、積極的に出かけて話し合います。話の中に出てきたことを拾い集めて、かかわれそうなことを提案しています。中学校は容易に組み込めません。担当職員がいろいろアドバイスしてくれ、とても助かっています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで PTA や教師がしていた雑務をボランティアが入ることで負担が軽減されたと思う。地域の人がかかわることで活性化されると期待します。 ・「学校には協力するもの」という意識が強いことに感心しました。子どもたちを見つめる「まなざし」がとても優しい。始まったばかりで成果らしいものは、はっきりしませんが継続することによって、はっきりしてくれると思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教頭先生を窓口としながらも、他の先生とも話し合い、要望を引き出したい。 ・ボランティア人口を増やすために、広報やチラシを活用して呼びかけたい。 ・あらゆる団体に、宣伝、協力を依頼。
7	小学校	町教育委員会	3	3	地域役員 PTA 役員 NPO 子育てサポーター	<ul style="list-style-type: none"> ・学校に学校支援ボランティア依頼状況を確認する。 ・学校行事予定をチェックし支援可能と思われる部分を検討してもらう。 ・要望に該当したら、担当者に報告し、ボランティアの方と打合せ時期等の段取りを決める。 ・学校とボランティアの調整を行う。ボランティアと同行し、記録写真を撮る。 ・随時学校側からの要望で調整する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毛筆指導でボランティアの方が学習支援に入り、姿勢、筆の使い方など基本から指導でき、子ども達の上達が著しい。子ども達も授業が楽しいと大変意欲的に取り組んでいる。 ・子ども達、先生方が支援者に元気に挨拶を交わしてくれる。学校外でもお互いの声かけが活発となる。 ・読み聞かせの会も本の配架や整理等も申し出てくれるようになった。 ・ボランティアの人達が（読み聞かせなど）スキルアップを図っている。 ・校長、教頭とも大変この事業に理解を示してくれる。地域の方とのコミュニケーションも積極的で活動しやすい雰囲気である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・要望をどんどん取り入れたいので、打ち合わせ、振り返りの時間を出来る限り設けたい。 ・PTA 活動に入り込みすぎないように、学校側、PTA 会長とも十分情報交換したい。 ・近隣町村とのコーディネーター同士の情報交換の場を設けてほしい。 ・学校で活動している様子を掲載した情報紙を作成したい。
8	村学校支援地域本部	村立ふるさと総合センター	5	4	PTA 役員	<ul style="list-style-type: none"> ・学校支援ボランティア募集とバンクづくりに向けチラシを作成し、小中学校と村の回覧で呼びかけをしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・放課後、部活動の付き添いに費やされていた時間を子ども達や教員の仕事に生かすことができた。 ・学校外での交流も見られるようになった。 ・学校との連絡・連携がうまくいっていると思われるためか、センター子ども教室での参加者が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・先生との話し合い・打合せのタイミングがうまくつかめない。 ・頑張っていたいただいているので特にない。 ・ボランティアの確保が難しい。

No.	学校種	活動拠点	日数	時間	前職・経験	コーディネート活動の概要	成 果	課 題
9	小学校	図書室	3	4	教委付コーディネーター	・直接学校側にお手伝いすることがないか確認。依頼を受け具体的な打合せをしボランティアに連絡。終了後は学校とボランティア両方から話を聞き、次回へつなげる。	・ゲストティーチャーを呼ぶことにより、学校、子どもにも良い刺激になった。 ・ボランティアの方々がとても喜んでい（挨拶や心のこもったプレゼントをもらい）子どもたちとかかわりがもてるようになり活動的になった。	・先生方と話をする時間がなかなかとれない。 ・まだまだコーディネーターについての認知不足が補えない。 ・学校側にアピールをしてほしい。
10	小学校	図書室	3	4	パート	・学校ボランティア募集中 ・学校とも話し合い、新しい活動など考え、ボランティア収集につなげたい。	・校外学習などボランティアの人達何人かいることで、怪我などの事故がなく活動ができた。 ・子ども達もボランティアとかかわることで、学校外で会った時でも、元気にあいさつをしてくれる子が増えた。	
11	小学校	図書室	3	4	PTA		・家庭科でボランティアの方々が学習支援に入り、ミシンの使い方等を効率的に指導でき、ミシンの苦手な子ども、技術が向上したと思う。 ・調理実習では、学年が2年生という事もあり、火傷などの事故に十分な注意を払い、楽しく調理し、笑顔で仲良く試食した。 ・コーディネーターとしての認知度は上がってきたが、まだまだこれからという感じです。	・先生方に報告したり、物事を進めたりしていく中で相談をすることはあるが、じっくり腹を割って話すことがない。忙しいです。 ・コーディネーター同士で、情報交換する場所が月1回しかない。他の学校はどうしているのか。自分の学校支援の進行状態は大丈夫か？と思う。打合せで、報告しあったり、助言したりする場（時間）もあるとよい。 ・特に秋は学校からのボランティアの要求も多く、図書の整理、管理まで手が及ばない。
12	小学校	図書室	3	4	PTA NPO、ボランティア		・家庭科実習（調理・ミシン補助）はグループに分かれるので、先生一人よりも、保護者、ボランティアの方に付き添ってもらえることで、授業もスムーズに運べる事ができた。 ・保護者ではない方から行事があったら教えて！！と声をかけていただけるようになった。	・いつ、どこで、誰が、何を、どのようにするのかを明示できるように、窓口の先生よりは、担当の先生と直接話し合いが必要。 ・月1回の打合せをそのまま継続してほしい。 ・町内、他小学校の状況を参考にできる。
13	小学校	小学校	1	2	地域役員 PTA 役員	・コーディネーター二人と教頭で今年度の活動案作成 ・地域教育協議会で活動方針・計画等の協議 ・協議会の企画部会で地域交流会等の活動具体化	・学校の公開授業研究会で来校者の案内等、学校側だけでは手薄になる部分で協力者を募って受入体制を整えることができた。 ・地域交流会で地域活動を熱心に行っている団体を紹介できたことで、啓発になったと思う。 ・地域交流会で、協議会会長からこの事業の趣旨について丁寧に説明があり、協力を求める機会を持ったことがよかった。	・学校側の窓口がはっきりしているのので特に問題はない。 ・2年目以降については、町や県での会議に招集される機会を少なくして学校区のコーディネート活動に集中させてほしい。 ・本校のコーディネーターは二人とも仕事を持っているため、退職したコーディネーターと同様にできないことを理解してほしい。
14	小学校	小学校	1	2	地域役員 PTA 役員	同上	同上	同上
15	小学校	小学校 公民館		8	元教員	①個々の依頼状況について学校側の担当と連絡を取り合い具体的な要望、内容を把握する。 ②担当するボランティアと打合せ時期等の段取りを決め、学校とボランティアの調整を行う。 ③その他にも、学校側からの要望で連絡、調整を行う。 ④コーディネーターセンターに配属されていることにより、町内全体の連絡、調整、相談に応じる。	・これまで教員がすすめてきた学習の準備、内容、かかわりをコーディネーターとして準備等にかかわることができた。 ・地域の方々に事業の趣旨を理解してもらうことができた。できれば、プログラムバンク的な活動になれたらよいと思う。	
16	小学校	小学校	2	2	地域役員 PTA 役員	・学校側の学校支援ボランティア依頼状況について、具体的な要望を把握し、窓口となっている教頭と打合せをした上で、該当するボランティアと打合せ時期を決め、学校とボランティアの調整を行う。	・ボランティア普及のための講習会開催により、学校の環境整備面が充実するとともに、少ない人数ではあったがボランティアへの意識を高める効果があった。 ・ボランティアの方々が、地域の子どもの教育のために支援するいい機会になっている。	・当事業の教職員の理解を得られるまでに、まだ時間を要する。 ・コーディネーター同士の情報交換の場を多くしてほしい。
17	小学校	小学校 公民館	5	8	前教育次長	・町公民館に、コーディネーターセンターを立ち上げ、ボランティア、ゲストティーチャー、行事予定、企画等学校との連絡調整を行う。他にコーディネーター間の情報交換、相談等も行っている。	・校外フィールドワークを実施する場合、その手段・方法・場所・人を知らない教師のために助力できた。 ・コーディネーターを積極的に使ってみようという姿勢が教師の中に出て来ている。 ・「学校のためなら」「子どもたちのためなら」という地域の方々の応援を得られやすくなった。 ・公民館にコーディネーターセンターを立ち上げたことによりコーディネーターがお互いに情報交換したり悩みを相談したりできるようになっている。	・一般の先生方の理解を得られるまでに時間を要する。 ・予算の使い方が学校でつかいやすいところまで至ってなかった。工夫を要する。 ・プログラムバンク（コーディネーターメニュー）を持っていなかったため早急に作るべきだった。
18	小学校	小学校 公民館	5	4	元教員	・学校側の学校支援ボランティア依頼状況を確認し、個々の依頼状況について、学校側の担当と連絡を取り合い、具体的な要望を把握し、該当するボランティアと打ち合わせ時期等を決め、学校とボランティアの調整を行う。 ・既存の地域連携行事や事業の継続、発展のため、地域の各種団体に学校	・学校支援ボランティア講習会開催により、環境整備面においては実施後、学校環境に変容が見られ、とても効果的であった。 ・家庭科のミシン縫いや調理、国語科の書写等における学習支援ボランティアの指導により学習効果がアップし、子どもたちの意欲向上にもつながった。	・先生方のニーズ等をゆっくり聞いたり、話し合う時間を確保したい。 ・コーディネートする上での諸問題をコーディネーター（行政担当者含む）同士で情報交換する機会を多く設けてほしい。 ・既存の PTA 事業と学校支援地域本部事業との兼ね合いをどのようにコーディネートすればいいのか。

						支援ボランティアの協力依頼と情報交換をお願いしている。	・ボランティアの方々が子どもたちの教育のために支援していることを理解するいい機会になった。 ・ボランティアと子どもたちが、地域で顔を合わせた時、気軽に声をかけ、あいさつを交わし、交流が持てるようになった。	
19	中学校	中学校	2	2	PTA 役員	・学校側の学校支援ボランティア依頼状況について、具体的な要望を把握し、該当するボランティアと打合せ時期を決め、学校とボランティアの調整を行う。	・ボランティア普及のための講習会開催により、学校の環境整備面が充実するとともに、少ない人数ではあったがボランティアへの意識を高揚するのに効果があった。 ・ボランティアの方々が、地域の中学生のために支援するいい機会になっている。	・先生方のニーズ等をゆっくり聞いたり、話し合う時間の確保が難しい。 ・コーディネーター同士の情報交換の場を多くしてほしい。
20	小学校	小学校	2	2	地域役員	同上	・ボランティア育成のための講習会開催により、特に学校の環境整備面が充実するとともに、少ない人数ではあったがボランティアへの意識を高めるのに効果があった。 ・「地域子ども達を地域で育てよう。」とする具体的なスタートとなった。	・先生方のニーズ等をゆっくり聞いたり、話し合う時間を確保したい。 ・コーディネーター同士の情報交換の場を多くしてほしい。
21	小学校	公民館	1	3	PTA 役員	・学校側の学校支援ボランティア依頼を確認する。 ・学校側の担当者で連絡を取り合い、具体的な要望を把握し、地域の各種団体に学校支援ボランティアとしての協力依頼をお願いする。 ・学校支援ボランティアの活動状況を紹介する新聞を作成し、各学校や保護者へ配布し、村内へ回覧する。	・総合的な学習では、学校田稲刈りにボランティア（地域老人クラブ）の方々が入り、カマの使い方や棒がけ作業などを指導、手伝うなど、効率的に活動が進められた。また、老人クラブの方々と子どもたちのふれあいは異世代交流のよい機会になっていた。 ・稲刈りは、老人クラブの方々にとって長年の経験を生かせる慣れた作業であったため、学校へ出入りすることへの抵抗や面倒な打合せの必要もなく、スムーズに協力してもらうことが出来た。	・すでにボランティアを十分活用している学校は、今のところ新たな支援の要望はなく、コーディネーターの機会もない。コーディネーターからボランティアの活用を促すことはせず、要望があればコーディネートするというスタンスでいいのではないか。
22	中学校 小学校	公民館	1	3	学支ボラ 元教育委員 会職員 社会教育主 事	・地域教育協議会に出席し、学校側の支援依頼状況を確認する。 ・地域の老人クラブ、社会福祉協議会の活動、村より委嘱されている委員の情報収集等を行い、学校側からの要望との調整を行う。 ・学校支援ボランティアの活動状況を紹介する新聞を作成し、各学校や保護者へ配布し、村内へ回覧する。	・中学校では放課後の部活動でボランティアが専門的に指導を熱心に行っており、生徒の技能も上達している。一方、教員は放課後の教材研究の時間が確保できている。 ・小学校では花植えや読み聞かせなど、ボランティアの経験、専門性を生かした支援により、多様な学習機会の提供、学習意欲の向上につながっている。 ・ボランティアとして学校に行くことにより、子どもや先生方も親しくあいさつや会話ができるようになった。	・日常の活動では学校担当教員との連絡調整がほとんどで、他の教員から直接要望を聞くことができない。
23	地域教育力 推進協議会	町教育委員会 生涯学習課	2	8	元教員	①定期的に行われる町地域教育力推進協議会等の会議に参加し、学校側の学校支援ボランティア活動やボランティア依頼状況等を確認するための訪問を実施 ②個々の依頼があった場合は、学校側の担当と連絡を取り合い具体的な要望等を把握し、該当するボランティア・団体責任者と打合せ実施時期等の段取りを決め、学校とボランティアの調整を行う。 ③実施日には、情報紙の取材も兼ねて必ず参加するようにしている。	・受入体制ができていない学校では、学校支援を活用し、自校の特色をだして学校活性化につなげている。また、学校支援の方々とかわりをもつて子どもたちは喜び、教員も感謝の姿勢がみられてきた。 ・一方支援者たちも、学校と子どもたちのために役立ててよかったと三者の喜びを確認できるのはコーディネーターの励みになると思います。	・学校では、窓口になっている担当者の仕事が増えて大変であるという受け止め方をしています。窓口となる担当者の事務的負担軽減を最優先することを心掛けることが必要である。 ・同じ内容で学校に行っても、学校の受入体制や対応は、学校によってそれぞれ違います。受け入れる学校の事情を常に配慮した上で支援していかねばならない。事前に十分な説明と連絡を誠意を持って対応することを怠らないこと。
24	町地域教育力 推進協議会	町教育委員会 生涯学習課		30/ 週	PTA 役員	・定期的に行われる町地域教育力推進協議会等の会議に参加し、学校側の学校支援ボランティア活動やボランティア依頼状況等を確認するための訪問を実施。 ・実施日には、情報紙の取材も兼ねて必ず参加するようにしている。	・小学校の図書ボランティアが、少しずつですが、活動が始まってきています。 ・中学校でも始めようと動き出しそうです。	・学校とかかわり、先生方の業務を軽減するには、拠点を学校に置いた方がいいのではないかと思います。 ・町の人材を知らなければいけないと思いますが、他の町村のコーディネーターさんと交流を持って実情を交換したいです。
25	市地区 学校支援 地域本部	小学校ボラン ティア室	1~2	3	学支ボラ	・学校側よりボランティアの要請、依頼があった場合、内容状況等を確認し、地域のボランティアに連絡、担当できる者の調整や打合せ、段取り等を決める。 ・学校側から具体的な内容や要望等も把握し、該当するボランティアの不安などがないように動く。活動状況は定期的に地域教育協議会を開催したり、ボランティア広報紙等も発行し、地域や保護者、担当学校区に広く情報を公開している。	・教科にコース別学習を取り入れて少人数でじっくり学習できる環境が整い、それにもなつてやはり全体の学力も確実に上がってきました。又、先生方への支援も徐々に出来るようになってきているので、よくコミュニケーションもとれるようになってきました。 ・学校区内の地域全域に回覧するよう、年に数回、ボランティア活動の様子や学校の児童生徒の活躍の様子を広報していますがだんだんと皆が学校に意識を向けてくれるようになったことです。 ・普段の子ども達（児童生徒達）に目を向け、気に掛けてくれる様子が地域のシルバー世代の方々に見受けられるので大変うれしく思います。	・当本部では問題ありませんが一つ多くあげられるのは、担当窓口教員以外の教職員にどのように理解（学校支援）してもらうか、コミュニケーションの取り方がわからない、取れないということだと思います。 ・まず、地域本部を設置、指定する学校に事業の趣旨、内容をしっかり説明し、理解してもらうこと、うわべだけの数合わせでは何にも成果はでません。 ・コーディネーターに対しては養成講座のみならず、スキルアップ研修のような研鑽をつむ場もあればよいと思います。
26	小学校	小学校ボラン ティア室	1~2	3	学支ボラ	・定期的にボランティアルームだよりを発行し PTA、地域の方々にボランティアの状況などを紹介している。	・ドリル丸つけー成績が向上した。 ・校外学習引率ー安全により多くの場所を見学することが出来た。 ・地域の方が学校に（学校畑、お楽しみ交流会など）関心を持ってくれるようになった。	・さらに一歩進んだコーディネーター活動の研修をしてほしい。

27	小学校	小学校					<ul style="list-style-type: none"> 朝のあわただしい時間に読み聞かせをし、子ども達がゆったりとした気持ちで授業にのぞめる。 父兄と子ども達とのコミュニケーションがとりやすくなった。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校、地域のそれぞれの特性を理解していただければと思います。 地域にどんな方々がいるのか知ること。
28	小学校	小学校	0.5	2	その他	同上	<ul style="list-style-type: none"> 学校側の要望に応じた支援が行われた。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校の要望とボランティアの活動する時間帯や人数などを明確にする。 通帳をつくるのが面倒、転勤が多いので印鑑などがたくさん必要で、処理が面倒である。 地域の人々がもっと参加してほしい。
29	中学校	中学校	5	4	臨時講師	<ul style="list-style-type: none"> 教頭及び教務主任に学校支援ボランティア依頼状況を確認する。 個々の依頼状況について学校側の担当と連絡を取り合い具体的な要望を把握する。 該当するボランティアと連絡を取り、学校とボランティアの調整を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 部活動においてはその競技の専門的な知識、技能を持つ方に指導してもらおうことで子どもたちの技術が向上した。 特別活動では、物的な準備を手伝うことで、教員が生徒と共に活動する時間を増やすことができた。 ボランティア支援者が地域の人にも声をかけてくれることで、学校の活動に関心を持つ人が増えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ボランティア支援者にどのような活動をお願いするかという、学校としての方針ははっきりしていない。 他のコーディネーターの活動の様子を知りたいので、コーディネーター同士の情報交換の場を設けてほしい。 ボランティアを希望する人の数がまだ少ない。 ボランティアと学校との時間調整が難しい。
30	小学校	小学校	5	2-3	臨時講師	<ul style="list-style-type: none"> 学校側の窓口教員や教頭と学校支援ボランティアの依頼を確かめようかを確認する。個々の依頼に合うようにボランティアから参加者を募り、活動時間と活動内容の段取りを大まかに打合せをする。 活動の内容により、ボランティアの増員や時間帯の変更調整も行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 茶道の専門家とボランティアが活動を請け負い、教諭が時間を有効に使用して、児童の学習に深みが増した。 学校周辺のボランティアならば、地域の方がボランティアとして活動に参加しやすいことがわかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 閉校となるので課題はない。 学校と地域の両方にコーディネーター役を置いてもらえると人材の発掘、連絡調整にも便利なので是非お願いしたい。 学校と住居地の距離が遠くなると、これまでのようなボランティア参加は期待できない。 ボランティアのためのボランティア募集ではなく、PTA 活動とかわりがないということを地域に広く知ってもらう。
31	中学校	中学校	2	5	地域各種団体役員 PTA 役員 学校評議員	同上	<ul style="list-style-type: none"> 子ども達と向き合う時間が増えたので、あいさつなど生徒から声をかけてくれるようになった。 資料作成など「手伝い」をすることで、先生方の仕事が軽減できるのでよかったです。 学校と地域の人々のつながりができて、孫のために！など、学校へ誘いやすくなった。 アイデアを出したり工夫したりできる人達がたくさんいるので、声をかけると、心良く思ってくれるし喜んでくれる。 	<ul style="list-style-type: none"> 先生方の仕事の大変さもわかったので、できることから協力していきたいと思います。 質問などに対してははっきりとした返事で対応してほしい。 担当の方々はだれもが意見や答えを同じにできるように話し合いをきちんとしてほしい。 登録ボランティアを増やして、活動の機会を増やしていきたいと思っています。
32	中学校	コーディネータールーム	2	6	PTA 役員 地域各種団体役員 NPO、ボランティア PTA 事務職員	<ul style="list-style-type: none"> 地域連絡協議会（地域教育協議会）の下部組織に 4 つのプロジェクトがある（教育活動プロジェクト、図書館支援プロジェクト、環境支援プロジェクト、情報発信プロジェクト）それぞれのプロジェクトの活動に必要な案内文などを作成し、配布する。（保護者、地域） 人数が不足の場合は、個別に連絡をとる。（それぞれのプロジェクトから依頼がくる） 教職員からの依頼に応じて適性な人材を探す。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師の専門分野以外の協力で生徒に還元できる。 教師の仕事を軽減することにより（資料の作成の手伝いなど）子ども達と昼休み、放課後などに向きあう時間が増えた。 図書ボランティアの活動により図書館が格段に使いやすくなった。 支援ボランティアの方々がやりがいを感じて活動している。（生きがいになった。） 	<ul style="list-style-type: none"> 本来のコーディネーター以外の仕事もあり、よい面も困った面もある。（よい面：教職員の助けになるので仲間意識が芽生えいろいろな場面で助かる。悪い面：コーディネーター本来の仕事の時間が足りなくなることがある。） 質問などに対して迅速な対応をお願いしたい。 登録ボランティアを増やし、活動の機会を増やさないで私たちの仕事も増えていかないので、努力をすること。
33	小学校	集会室	3	4	PTA 役員	<ul style="list-style-type: none"> 学校側の担当と連絡を取り合い、具体的な要望を把握し、該当するボランティアと打合せなどし、学校とボランティアの調整を行う。その他随時学校側からの要望で調整を行う。 学校支援ボランティア募集とバンクづくりに向けチラシを作成し、地域に配布し情報を収集中 図書支援研修会を実施し、随時活動できるよう図書館協力員と連携しながら活動中 	<ul style="list-style-type: none"> 図書支援研修会を行ったおかげで自主的にボランティア活動をしているという意識が高まってきた。 少しずつではあるが地域の方にコーディネーターとして顔を知っていただけました。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校支援に関してはまだ教員との連携がとれていないのでなかなか実行することができない。これからどのように行っていくか課題である。 学校が求めているボランティアがなかなか決まらず綿密な打合せ等ができない 他の地域コーディネーターと活動の情報交換の場をつくってほしい。 予算の使い方などをもっとわかりやすくしてほしい。
34	小学校	集会室	3	4	PTA 役員	同上	<ul style="list-style-type: none"> 図書支援ボランティア養成講座を行ったことにより、積極的に活動に取り組もうとする姿が見られた。 既存のボランティア（おじさん・おばさん）の方達に登録していただき、保険に加入したことで、安心して活動に来ていただけるようになったこと。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習支援活動には、まだ取り組めていないのが現状である。また、学校側が必要とするボランティアも十分には集まっていない。 消耗品の購入に関して、リストを送ってから直接配達というのは、時間がかかり、金額も把握できない。予算の管理が難しい。 地域への周知がまだ十分ではない。また、地域団体等の把握もまだきちんとできていない。
35	小学校	印刷室	3	4	学校評議員	<ul style="list-style-type: none"> 学校支援ボランティア募集とバンクづくりに向けチラシの作成と配布をした。 ボランティア登録の協力を個別に電話でお願いした。 学校側からのボランティア依頼状況を確認する。個々の依頼状況について学校担当者との連絡を取り合い具体的な要望を把握し、該当するボランティアとの調整を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ボランティアが入ることにより、校外調べ学習や調理実習が事故もなく安全に行うことができた。 ボランティアと子ども達が仲良くなり心のふれあいが見えてきた。 地域の人達が入ることにより刺激になり、子ども達が意欲的に活動に取り組むようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校主体の事業になっているので、事務処理等、徐々に移行していかなければならない。 市内のコーディネーターの活動状況を知りたいので、情報交換の場を設けてほしい。

36	小学校	印刷室	3	4	学校評議員	同上	同上	同上
37	小学校	地域連携室	3	4	地域各種団体役員 元PTA役員 元臨時技能主事	・定期的に行われる地域教育協議会の会議に参加し、学校側の学校支援ボランティア依頼状況を確認する。 ・依頼状況について、教員から具体的な要望を把握し、ボランティアの紹介や募集を行う。また学校と地域との情報の共有を図るためにお便りの発行を行う。ボランティアや地域からの情報を学校に伝え、関係者に連絡し、事後の状況を記録する。	・校外学習の児童引率時、教員だけでは十分な安全確保が困難なところをボランティア同行により、安全確保が得られた。 ・地域の歴史や文化についての学習時、講師依頼にあたり地域の人材情報を提供し、教員や子供たちの作業時間を軽減することができた。 ・子供たちが地域の方々とかかわる機会が増すことで地域に対する関心度が高まった。 ・情報提供のためのお便りの発行により、地域の人たちから学校に対する関心度が高められるようだ。	・ボランティアをすることに負担感を持たれないよう配慮したい。 ・広い人材確保に努めたい。 ・ボランティアとの連絡のための時間確保が難しい。(主に夜間になる) ・募集依頼した立場上、ボランティア活動に参加やかかわる範囲に悩む。
38	小学校	地域連携室	2	2	PTA役員	同上	同上	同上
39	中学校	公民館	2	4	学支ボラ 地域各種団体役員 PTA役員	・学校側の学校支援ボランティアの要請を把握する。 ↓ 個々の依頼を受け、担当教員と打合せをして、ボランティアと交渉する。 ↓ ボランティアの承諾を得て、派遣する ・ボランティアの募集、情報発信は公民館だより等でお知らせしている。	・総合学習で地域の歴史を調べたり、聞きとり調査等を誰に頼んだらよいかわからなかったが、ボランティアがすぐに見つかった、生徒も地域の人の生の声を聞き、地域の事がよく理解できた。 ・地域住民と生徒の交流により、地域住民が生徒からパワーをもらい、来年もまたボランティアができたと言ってもらえるようになった。	・学校とコーディネーター、ボランティアが一同に会し、打合せをする時間がとれない。
40	中学校	図書室	3 (月)	3	学支ボラ PTA役員	・教頭先生と連絡を取り、学校側の学校支援ボランティア依頼状況を確認する。 ・個々の依頼状況について学校側の担当と連絡を取り合い、具体的な要望を把握し、該当するボランティアと打合せ時期等の段取りを決め、学校とボランティアの調整を行う。	・学校の花壇の整備をし、校地内の環境を整えた。	・先生方とじっくり話し合ったり打合せをしたりする時間がとれない。
41	中学校	公民館	2	4	PTA役員 地域各種団体役員	・学校側の学校支援ボランティア依頼状況を確認する。依頼状況について学校の担当と連携を取り合い具体的な要望、ボランティアの確保、学校とボランティアの調整を行う。	・校長、教頭を頂点に学校全体に支援要請の仕組みが理解され、総合的に学習支援の要請がスムーズに実行されている。 ・ボランティアの方々も得意分野での活動支援が生かされ喜んでもらった。ボランティアの方々の生き生きとした姿が見られた。 ・活動支援後も交流を深め情報交換ができた。	・学校側の考え方、要望の取りまとめ ・年度初めに計画できるものは事前に把握する。
42	小学校	研修室又は自宅	3	3	学支ボラ PTA役員 地域各種団体役員	・ボランティアの内容や人数など教頭より依頼があった時に、直接声かけをしたり、学年委員さんを通して、探してもらったりしている。 ・まめに学校へも顔を出し、校長・教頭・教務主任などと話す時間を作っている。	・年々児童数が減少し、職員も減っているため、引率などの面で協力できてよかったと思う。 ・地域の方と児童がふれあえる行事なども企画されて、楽しかったと言ってもらえた。	・今後も連絡を取り合いながら、要望にそえるよう頑張りたい。 ・養成講座や担当者会議など、行事の多い時期(9月・10月)は仕事との調整が難しいので、日程に配慮がほしい。(無理だと思いますが)
43	小学校	小学校	5	40 ～ 50分	地域各種団体役員	・学校側からボランティア依頼状況を確認し、個々の依頼状況について学校側の担当者と連絡を取り合い、具体的な要望を聞き、該当するボランティアと打合せ、学校とボランティアとの調整を行う。	・子どもと顔が一致しないが、子ども達が気軽に声をかけてくる。 ・地域の行事にも子どもの参加が増えてきた。	・現在のところ、学校側とコーディネーターと連絡が十分とれている。 ・他校(地域)の活動の様子が知りたい。
44	中学校	中学校	現在は用事がある時顔を出す程度		PTA役員	・地域教育協議会の会議に参加し、学校側の学校支援ボランティア依頼状況を報告し、地域としてどうかかわって頂くかなどを依頼する。	未だなし	・コーディネーターとして、用事がある時だけでなく時間を決めて毎週何回とか行く必要があると思います。先生とのコミュニケーションのためにも12月から実施したい。
45	小学校 中学校	小学校 中学校	3	2 ～ 3	学支ボラ		・先生方の仕事の負担が少しでも軽くなっている。 ・学校の生徒とふれあう事で元気になる。	・まだまだ理解が少ない。 ・現場同士の情報交換をしてほしい。
46	中学校				PTA役員 NPO、ボランティア			・先生方にまだ事業の内容が伝わっていないようで、特に目立ったアクションがない。これといった要望がないので、とりあえず単発のボランティアや研修の企画をする程度。自分が何もしていないというあせりが出ます。 ・この事業の前からいくつかのボランティアが学校内(読み聞かせ)、地域(防犯)で存在しているのを改めてやることはそれほど多くない。
47	小学校	PTA活動室	3	4	学支ボラ PTA役員	・学校側の担当と連絡を取り合い具体的な要望を把握し、該当するボランティアの募集とその後の段取りを決め、学校とボランティアの調整を行う。その他随時学校側からの要望で調整を行うこともある。	・教職員がボランティアの連絡調整に費やされていた時間を他の業務に専念できるようになった。 ・図書の整備等に費やされていた時間が減り、教材研究や子ども達と向き合う時間が増えた。 ・ボランティアが学校に入ることによって、学校の様子がわかり、学校に来やすくなった。また、子ども達と顔見知りになることで、学校外での交流も増えてきた。	・担当の先生との打合せ可能な時間の確保 ・他地域のコーディネーターとの情報交換の場を設定してもらうことと、他県での情報提供もお願いしたい。

									<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアがよりよい活動を目指して自主的に研修しようとする意識が向上した。 ・PTA 活動室や職員室にコーディネーターの席が確保してあるので、先生や保護者との連絡が取りやすい。 	
48	小学校	相談室	3	4	PTA 役員 地域各種団体役員 放課後子ども教室 安全管理員	<ul style="list-style-type: none"> ・月・水・金の週 3 日学校にいる時に先生方から支援依頼を受けボランティア募集の準備（依頼の詳細、各担当の先生と確認、手紙を作成し配布）※不足の時は直接電話でボランティアを依頼 ・図書ボランティア、部活動支援から初めて、PTA の方のボランティアの参加が増えてきました。 ・地域全戸（1300 戸程度）にリーフレットを配布し、学校支援ボランティアを理解し、参加していただくために声をかけさせていただいています。老人クラブや地域健康推進委員の方々他各団体へ協力を依頼して宣伝しました。（公民館に人材バンク申請書設置予定） 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字練習プリント、算数丸つけボランティア（毎日）の依頼を受けた時は不安な様子でしたが、先生より子ども達が上達していく話を聞いて支援を依頼してよかったと思います。 ・地域の方の熱心さが伝わり子ども達にいろいろな事を教えていただき、世代間とのつながりになっていると思われま。 ・学校で子ども達が元気に学んでいる様子が感じられることが一番です。たくさん子ども達が向上しているように見受けられます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校のニーズにあい、また保護者（PTA 他）とのかかわりの中で必要な事は取り入れられるように努力したいと考えます。 ・学校活動にあたり必要な支援はこれからも続く子どもたちの成長にもつながっていくと思います。 ・現在 PTA の方の学校支援が盛んで助かっています。より地域の方とのかかわりを加えるとよい活動になり、子ども達の笑顔にもつなげていけるのではないかと考えています。 		
49	小学校	相談室	3	4	学支ボラ 放課後子ども教室 安全管理員	<ul style="list-style-type: none"> ・月・水・金の週 3 日学校にいるので、先生方が依頼書を書いて持ってきます。（主に校長・教頭からが多い） ・依頼内容の詳細を各担当の先生と確認をとりながら、ボランティア募集の手紙を作成し配布します。（少数の時は手紙は省略し直接依頼） ・応募があればそれを集計し、不足の場合直接電話で依頼。 ・ボランティアと先生の打合せ（前日までか当日）について相談。 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字練習のノートの丸つけボランティアが毎日入るようになり、ていねいに書くようになった。先生が丸つけをするのにかかる時間も指導にあてられるようになった。漢字テストの点数もよくなったとの話を聞きました。 ・郷土料理の指導をして下さる方々は、子ども達のおばあちゃん世代の方ばかり。家庭科に入っていたいた時「とても楽しかった」と喜んで、その後放課後子ども教室にも指導に来て下さいました。校外で会っても、あいさつをしたり話をしたりしているようです。 ・丸つけなどは、個人情報を守る意味でも、その学年以外の保護者で行っています。そうすると、いろいろな学年の保護者が集まるので、情報交換の場にもなっているようです。低学年の保護者の方が高学年の方に「こういう時はどうしてました？」など相談できて助かっています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校長先生や教頭先生との連絡はとれているが、ボランティアが入る各学年（クラス）の担当の先生との話し合う時間がなかなかとれない。 ・大きなところでは、3 年後の予算がなくなったら、現在の体制が続けられるのか？という点。小さいところでは物品の依頼をしてもなかなか届かない点。（パソコンは届いてもプリンターがまだ・・・等も。） ・ボランティアに対する注意点（個人情報問題など）をどうするか、文面にすることも悩むところ。 		
50	中学校	PTA 活動室	4	2 ~ 3	PTA 役員		<ul style="list-style-type: none"> ・土曜学習会、パソコン教室を企画、開催。 ・事業が立ち上がり間がないので成果はまだ見られない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校支援地域本部事業の内容を、先生方に理解していただくための話合いの時間がとれない。 ・事業が軌道にのるまで、学校側への指導、説明が必要。 ・学習支援のためのボランティアを募集することが大変難しい。 		
51	中学校	PTA 活動室	4	2 ~ 3	学支ボラ PTA 役員	同上	同上	同上		
52	中学校	PTA ボランティア室	1	4	地域各種団体役員	<ul style="list-style-type: none"> ・学校へ事業の依頼・周知、地域へチラシ配布・周知、PTA への協力依頼ボランティアの募集、事業実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・担当地区内 3 校中 1 校のみでしたが、推進活動の成果もあり他の 2 校も学校支援に取り組みたいと返事をいただきました。 ・「読み聞かせ」も取り入れたいと思ひ、読み聞かせ講習会の案内をしたら多数の参加者がありました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校支援について理解できない学校・教職員があり、行政やコーディネーターが入り込めないような感じもあつたりするので、県側として理解される説明が必要かと思ひます。 ・組織として活動できるまでは、行政からの予算も必要だと思ひます。せつかく組織ができた以前の体験活動ボランティア活動のように予算打ち切りになれば、崩れてしまいます。 ・コーディネーターとして常に従事できる方ばかりならよいと思ひますが、組織に対してコーディネーター数が少ないと思ひます。 		
53	中学校	ボランティアルーム	3	4	PTA 役員	<ul style="list-style-type: none"> ・学校支援地域本部事業の紹介・学校支援ボランティア募集のチラシを作成し町内全戸に配布。 ・学校側の学校支援ボランティア依頼状況について、学校の担当者と連絡を取り合い具体的な要望を把握し、学校とボランティアの調整を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書が整理され、見やすく、利用しやすくなった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアがなかなか集まらない。 		
54	中学校	PTA ボランティア室	2,3	4	PTA 役員	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に学校支援ボランティアのお知らせと、募集をした。学校にも学校支援ボランティアのお知らせをし、ボランティアの依頼をお願いした。 ・教頭から依頼を受けた後、ボランティアを一人ずつ依頼し集め、教頭と時間、場所等を調整し実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の中に生徒と先生だけでなく、地域の大人が入っていき子どもにも地域の大人のかかわりが感じられたのではないかと。 ・何かやりたいと思っている人の役に立つことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・先生とのコミュニケーションの時間がなかなかとれない。 ・広報活動をしてほしい ・予算の確保 ・先生も地域の方も、まだ様子見のように感じられる。 ・一人のコーディネーターで 4 校担当はつらい。 		
55	小学校	PTA 会議室	2 ~ 3	4	PTA 役員 NPO、ボランティア		<ul style="list-style-type: none"> ・担当教師の図書の台帳記帳、PC 入力にかかわる日数を考えると、授業準備に費やしてもらうことが、先生自身の余裕と生徒への学力成果になったと思う。 ・丸付けは児童が楽しくボランティアの方と接する事ができた点、効率よく丸付けすることで、問題を解け 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校からの依頼を一方的に地域に投げかけて募集する活動だけではなく、本事業の本来の目的に沿うよう地域の実態や要望、ボランティアを希望する方々との交流を図りながら、町独自の活動内容を考えていく必要性を切に感じる。 ・インターネットの接続は認められ 		

						ない児童に担任が時間をかけて教えることができる点が、学力向上につながった。 ・下校見守り活動の地域への依頼に、学区内町会長、民生委員の協力を得たこと。	ないと説明されたが、文書をメールで送信しなければならないものが多く、調べ物も自宅でしたりと大変不便である。 ・学習支援ボランティアの場合、教職経験者あるいは教育学部の大学生、保護者には依頼しないなどある程度の取り決めがあった方がよいのか、誰にでもボランティアしてもらえるように呼びかけるべきかはっきりさせる必要がある。	
56	小学校	職員室	3	4	学支ボラ	・小学校の教頭先生と連絡を取り日程を組んでいる。	・学校側で気になっている設備や木の剪定等、専門家に依頼すると高額になってしまうところを、ボランティアが修繕できる範囲で直すことで子ども達も安全で職員にも喜ばれた。	
57	小学校	野球部	5	3 ~ 4	その他	・コーディネーターとしての活動内容と時間等を教頭先生と直接会って連絡したり、相談したり、地域の研修等にも参加しています。	・私の活動は野球部支援ですが、その他の父兄の方々の協力もあり、部活動として、小さい大会ではあります。優勝することができました。協力し合いチーム一丸となり努力をすれば優勝できるという喜びを子ども達は知った。 ・学校との細かい連絡や協力を密にすること。	
58	小学校	職員室	5	4	PTA 役員	・先生方へ今後の授業計画の中でボランティアを必要とする場面などを、アンケート方式で提出してもらい、それに伴ってボランティアの調整や各種団体への交渉など行う。	・校外学習にボランティアが入り、担当教員が安心して児童と学習することができた。 ・家庭科でボランティアの方々が支援に入り、ミシンの使い方を効率的に指導でき児童達の技能も向上した。 ・ボランティアの方々が子ども達と接するようになり、地域での声かけが無理なくできるようになった。	・常に先生方と接し、対話して自ら活動の場を模索し、ボランティアの方々が活動しやすい環境づくりに心がけたい。 ・他のコーディネーターの活動の様子をもっと知りたいので定期的に情報交換の場を設けて欲しい。
59	中学校		4	3 ~ 4	元教員	・定期的な地域教育協議会の開催を働きかけ、学校側のボランティア依頼状況を確認する。 ・地域の各種団体と連絡を取り合い、ボランティア募集とボランティアバンクづくりに向けて準備をすすめている。 ・保護者、地域の方々の多くが専門分野を生かしてボランティアとして学校の部活動を支援できるように調整を行う。	・今始まったばかりなのであまり成果は上がっていないが、教員の部活動に費やす時間が軽減される。各運動の指導方法をボランティアの方から教師、生徒ともに学ぶことができ、競技力が向上する。 ・地域の方々の学校への出入りが多くなり、先生方や生徒との交流の機会が多くなり、地域の方々が学校の状況を知る機会が多くなった。	・まだ人材確保の段階です。
60	小学校	職員室	2	2	保育士	・学校側の担当と連絡を取り合い具体的な要望を把握し、該当するボランティアと打合せ時期等の段取りを決め、学校とボランティアの調整を行う。		・先生方と打合せをする時間を多く設け、活動に役立てたいです。 ・コーディネーター同士の情報交換の場を設けてほしい。
61	小学校	職員室	3	3	製造販売	・学校支援地域本部事業の実施に向け、学校支援ボランティア募集とバンクづくりに向け、チラシを作成し、配布しました。		・先生方の仕事が多いため、話合いの機会がなかなかとれないし、学校側からの依頼がないのでなかなか仕事が進まない気がします。 ・コーディネーター同士の情報交換の場を設けてほしい。
62	小学校	職員室	4	4	学支ボラ PTA 役員 地域各種団体役員	・学校側の学校支援ボランティア依頼状況を確認する。学校側の担当と連絡を取り具体的な要望を把握し、該当するボランティアと打合せ、時期・内容の確認をして、学校とボランティアの調整を行う。また各種ボランティア募集のチラシを作成し、広く参加希望者を募り人材リストを作成する。 ・地域の各種団体、老人クラブ等の情報を聞き、本事業へ協力依頼や参加を呼びかけている。	・校外学習、体力テストは合計 15 名の学習ボランティアの方々に支援をしていただいた。事前に学習内容を説明し、理解してもらってからだったので、連携がスムーズに行えた。 ・世代交流に地域の老人クラブをはじめたくさんの高齢者の方々に参加していただき、子ども達とボランティアの方々と和気あいあいとした関係を築くことができた。また、子ども達が昔遊びやなわなひを教えてもらい、ボランティアの方々に対して尊敬や思いやりの気持ちをもって、お互い得るものが大きかった。 ・発足して 2 ヶ月あまりですが、学校支援ボランティアの登録が 100 名を超え、除々にではあるが学校支援地域本部やコーディネーターの必要性を理解してもらえるようになったと思う。	・学校のニーズ以上に、学校支援ボランティアに興味がある人が地域にたくさんいるので、それをどのように教職員や学校関係者と話し合い、調整していったらいいか模索中です。 ・学校支援ボランティアの研修会・交流会の場を設けてほしい。 ・来年度は学習支援ボランティアを増やして、新しい効果的な学習支援ができれば子ども達も授業が楽しくなるのではないかと。そのために教職員としっかりした連携・情報交換をしていきたい。

(4) コーディネーターに関する調査結果について

[栃木県]

①学校種

回答のあった95校のうち小学校が55校となっており、半数程度が小学校で活動するコーディネーターとなっている。あとは中学校（区）で活動するコーディネーターである。教育委員会等に配置されているコーディネーターはいなかった。

②活動拠点

活動拠点としては、会議室(16件)、PTA室(15件)、地域活動室(10件)となっており、半数近くが会議室やPTA・地域活動室が充てられていることがわかる。その他、校内の家庭科等の準備室や司書室が充てられているケースもみられる。中には校長室(7件)というケースもみられる。校外にあるものとしては、公民館が最も多く、教育委員会事務局や社会教育施設が拠点となっている事例(12件)も見られた。全体の傾向としては、各地域や学校の状況によって活動拠点が柔軟に設置されていることがわかる。活動拠点が公民館や教育委員会でも、基本的には特定の学校のコーディネーターとして配置されている。

③活動日数・時間

活動日数の平均値は1.7日で、1回当たり2.9時間となっている。少ない事例としては、月に1回、2時間、多い例として、週5日で7時間であるが、この例は他の業務（地域団体事務）と兼務で行われているため、コーディネーションのための時間が区分されていないためである。あとは「必要に応じて」「不定期」という回答(12.6%)があり、未回答が1割程度あった。このことは、定期的に活動していないコーディネーターが2割程度存在する可能性を示唆している。傾向として小学校は週3日以上活動しているコーディネーターが約20%存在しているのに対し、中学校(区)では3%であり、小学校の方が定期的な活動日数が多くなっており、中学校では必要に応じた不規則の活動が多くなっている。

④コーディネーターの前職と経験(複数回答)

PTA役員(70%)、地域役員(33%)、ボランティア(30%)とPTA役員経験者(現職を含む)が圧倒的に多くなっている。次いで元教員(8%)となっている。

⑤コーディネート活動の概要

多様に記載してある文章を精査すると、概ね次のような傾向が浮かび上がってきた。活動の中心は、「連絡調整・打合せ」(30件)が最も多く、次いで「地域協議会に参加し、ニーズの掘り起こしを図っている」(27件)であり、この他に、「学校の依頼によりボランティアに連絡をする」「学校側と定期的な打合せを持っている」「生涯学習課職員からの依頼を受けて調整した」この他に「人材情報収集・人材バンク作成」(12件)があり、ボランティア情報の収集に努めていることがわかる。ボランティアの募集方法としては、広報活動が多く、チラシ、広報紙の作成、回覧板、ポスターの作成といった活動が多く記載されていた。少数ではあったが、活動希望者に対する説明会や研修事業の記載が見られたが、全体としては少ない。さらに活動後の反省や感想をまとめたりといった、ふりかえり・反省に関する活動はほとんど見られなかった。コーディネート活動の中にこうした反省やふりかえりがまだ十分に位置づけられていないことがわかる。

栃木県のコーディネート活動は、スタートしたばかりの模索時期であり、ボランティアの募集や学校との連絡調整に大きなエネルギーが注がれている。その中でコーディネーターを支えているのが、地域協議会と学校であることがわかる。したがって、人材養成や研修、他校のコーディネーターとの情報交換、ふりかえりといった活動にまで行き届いていないことがわかる。今後は、清原南小学校で行われているようなボランティア同士の茶話会といったふりかえりや、ボランティア同志の交流が必要となっていることが示唆される。

⑥コーディネーションの成果

回答は、「教育活動の充実」「子どもの学習活動の充実」「子どもの変化」「防犯・安全活動の充実」などコーディネーションそのものの成果よりも学校の教育活動の充実など、学校支援ボランティアの導入の成果が記載されているものが圧倒的に多かった。

地域コーディネーターの活動によって、学校支援ボランティアの活動が充実していることから、広い意味でのコーディネーションの効果としても考えられる。こうした成果の蓄積によって、学校が十全に機能するためには、地域住民による様々な支援活動が不可欠なものとして認識されるようになることが大きな成果である。

その中でコーディネーションの成果としては、「教員の負担軽減」(11件)「連絡調整がスムーズになった」(4件)「行事の調整が円滑になった」(3件)「地域の協力が得られやすくなった」(4件)など目に付いた。他に、「ボランティアに参加する団体に広がり生まれた」「ニーズに適合したボランティアの発掘ができた」「教師への理解が深まった」「地域と学校の情報の共有が円滑になった」「地域の教育力が向上した」があげられていた。

すなわち、コーディネーターの配置によって、大きくは教員がこれまで自ら行っていたコーディネーションを代替し、負担軽減につながっていることがわかる。コーディネーションの成果の中で注目されるのが、教員や学校に対する成果だけでなく、若干ではあるが、地域に目が向きつつあることがわかる。今回の調査では、この項目に未記入が多く(29件)前述したように活動開始直後であったため、コーディネーター自身が十分にその成果を把握し切れていないことがわかる。

⑦課題

圧倒的に多かったのが「コーディネーター同士による情報交換」(16件)で、次いで「学校教員の理解不足」(13件)、「教員との打合せ時間の確保」(13件)、「ボランティアの人材確保」(10件)、「連絡調整の時間確保」(6件)「予算の執行」(6件)「ボランティアに対する説明や研修機会の確保」(5件)

「コーディネーターの仕事の役割分担の明確化」(5件)などがあった。この他に「コーディネーターが地域に理解されていない」「ボランティアマニュアルが必要だ」「各団体との連絡調整が困難である」「学校との情報共有が困難である・窓口の明確化」「行政の協力が必要だ」などがあげられている。

活動開始直後であることから、コーディネーターが具体的に何をすべきなのかが明確になっておらず、そのため、コーディネーター同士の情報交流のニーズが高くなっている。さらに学校との関係で大きな課題が残っていることがわかる。学校側の体制整備やコーディネーターとのコミュニケーションを十分にとる必要があることがわかる。同時に人材供給源としてPTAなどの組織的な支援が必要であることも浮かび上がってくる。栃木県の場合、課題の中心は学校や教員、ボランティアといった内部に向かっている。活動の初期の段階であることがわかる。

[青森県]

①学校種

回答のあった62名のうち、小学校が35件、中学校が18件、各学校に配置されるのではなく、教育委員会、地域協力推進協議会、地区ごとの支援本部など直接学校所属ではないコーディネーターが9件となっている。教育委員会等に配置されているコーディネーターは、必要に応じて、複数の学校に向向いて活動している。

②活動拠点

最も多かった回答は「学校」(15件)で校内のどの部屋かについては不明である。次いで「公民館」(11件)、PTA室(6件)、職員室、図書室(各5件)、教育委員会(4件)となっている。総じて学校外が32%で、栃木県の2倍となっている。これは、コーディネーターを単一の学校に配置するよりも広域的に

活動させる意図がみられことがわかる。

③活動日数・時間

平均活動日数は2.8日、1回当たりの活動時間は3.7時間となっている。栃木県とくべて活動日数、時間共に多くなっている。栃木県では週一日、1回3時間が最も多かったが、青森県では、週三日、1回4時間が最も多くなっている。総体としてコーディネートの量が多くなっている、あるいは複数校を担当していることによるものと推察される。少ない例としては月2回、活動時間は2時間、多い例としては、週五日8時間となっており、小学校にほぼ常勤している状況であり、他の業務も兼務しているケースである。栃木県に比べて不定期・未回答が4件と極端に少なく、活動内容がほぼ明確化され、定期的な活動として定着していることが推察される。活動内容を模索している段階ではないと考えることができる。

④コーディネーターの前職と経験(複数回答)

PTA役員(53%)、地域役員(27%)、ボランティア(27%)であり、PTA役員経験者(現職を含む)が半数以上になっている。次いで元教員(10%)、NPO(10%)となっている。栃木県とほぼ同様の傾向を示しているが、NPO関係者がコーディネーターとなっていることや、その他の割合が多く、保育士、製造販売業、社会教育主事、臨時講師など栃木県と比べて多様である。青森県は栃木県に比べてコーディネーターの人材をPTA等の内部関係者に求めるよりも広く地域、民間団体に求めようとしている点の特徴となっている。

このことは、青森県では日頃、PTA以外の地域住民が何らかの形で学校に参与していることを伺わせる。

⑤コーディネート活動の概要

多様に記載してある文章を精査すると、概ね次のような傾向が浮かび上がってきた。活動の中心は、「連絡調整・打合せ」(35件)、「ボランティアの依頼状況の確認」(35件)の2点が最も多く、次いで「チラシづくりなどの広報活動」(25件)、「ボランティアの募集・協力依頼」(16件)となっている。この他に特徴的な活動としては、教員に対するアンケートなどの「ボランティアニーズの把握」(4件)があり、学校からのニーズがなくてもコーディネーターが活動の場を探し、学校側に提案するなどの活動を展開している。

ところで、回答の多かった「連絡調整・打合せ」の内容をみていくと、校長、教頭、教務主任、窓口職員との連絡・調整が記載されており、青森県では学校の窓口が明確化していることが推察される。「チラシづくりなどの広報活動」の内容をみていくと、リーフレットの作成配布や、教育委員会や学校に出向き、事業説明と協力活用を教職員にアピールするなどの具体的な活動を展開している。「ボランティアの募集・協力依頼」の内容については、老人クラブや社会福祉協議会、地域健康推進委員会などに直接出向き、協力依頼をし、情報交換をしている。その他に特徴的な活動として、コーディネーターは、単に仲介するだけでなく、ボランティアの活動に同行し、活動を見守ることの他に記録写真の撮影などを行っている。また活動後もボランティアと学校の両方から話を聴き、次回につなげるふりかえりを行っている事例も見られている。青森県の場合、栃木県と異なり、活動内容が明確化され、学校側の窓口も確定し、活動がシステムティックに機能している可能性が高い。学校の受入態勢も整備されていることが伺える。これは青森県教育委員会が、毎年教員を対象とした大規模な研修事業を継続的に実施している効果ともみることができる。

⑥コーディネーションの成果

回答は、栃木県と同様に「教育活動の充実」「子どもの学習活動の充実」「子どもの変化」などコーディネーションそのものの成果よりも学校の教育活動の充実など、学校支援ボランティアの導入の成果が記載されているものが圧倒的に多かった。

その中でコーディネーションの成果としては、「教員の負担軽減」(16件)「ボランティア活動への

関心が高まった」(8件)「ボランティア自身がやりがいや楽しみとなった」(7件)「連絡調整がスムーズになった」(4件)「地域の協力が得られやすくなった」(5件)などがあげられている。他に、「子どもを地域で育てる意識が形成された」「コーディネーターが地域に周知された」「学校と地域の協働が進んだ」「住民同士の交流を図ることができた」「子どもが地域に関心を示すようになった」「地域の行事に子どもが参加するようになった」「ボランティアの意思や希望を生かした活動ができた」などが記載されていた。

栃木県に比べても効果の視点が、学校や教員だけでなく、ボランティアや地域に向いていることが特徴となっている。

⑦課題

圧倒的に多かったのは「教員との打合せ時間の確保」(19件)であった。次いで「コーディネーター同士による情報交換」(15件)で、「ボランティアの人材確保」(11件)、「学校教員の理解不足」(8件)、「予算の執行」(8件)、「広報活動」(5件)、「学校のニーズの把握」(4件)が目立っている。栃木県と比べてみると、「教員との打合せ」や「広報」などにより実践的な問題点に課題意識が向いていることがわかる。それらのほかに「教育委員会と学校との連携」「コーディネーター研修の改善や充実」「人材バンクではなくプログラムバンクが必要だ」「地域の特性を生かしていきたい」「地域の現状把握をしていく必要がある」「地域の人々の参加を促進する」「学校と地域の両方にコーディネーターがいるとよい」「もっと活動の量を増やしていく必要がある」「地域への周知が必要だ」「コーディネーターの人数を増やしてほしい」「ボランティアの研修と交流が必要だ」などがあげられている。

これらをみると、栃木県のコーディネーターの課題が学校や教員との関係に集約されているのに対して、青森県では、地域社会やボランティアへの眼差しが中心となっており、学校支援から地域づくりに目が移りつつあることが顕著にみることができる。

(5)まとめと考察

学校支援地域本部事業の初年度ということもあり、両県ともスタートしたばかりではあり、模索の段階である。

①コーディネート活動をみていくと、青森県はコーディネーターが求めに応じて支援するのではなく、率先して活動の場を開発し、アクティブにコーディネート活動を展開していることがわかる。それに対して栃木県では地域協議会への参加や人材バンクなど、推進体制や活動基盤の整備にエネルギーが注がれていることがわかる。

②学校の受入態勢であるが、両県とも教員の理解が不十分であることがわかる。これに対して青森県では、夏季に集中的に学校と地域の連携に関する教員研修を県生涯学習課が主催して、継続的に教員理解を促進しており、栃木県では教員が社会教育主義講習を受講する中で、教員の理解を促進する施策を進めている。

③両県とも模索の段階であることは、例えば、課題として「コーディネーター同士による情報交換」に強いニーズがあることからわかる。しかし、現実のコーディネーター研修では延々と事業の趣旨説明が行われるか、講演会形式の研修が圧倒的に多くなっている。こうしたニーズを踏まえて研修の内容を再検討していく必要がある。

④成果や課題で注目されるのが、コーディネーターが次第に地域住民やボランティアに眼差しが向かっていることである。活動当初は教員とコミュニケーションを充実することによって様々な課題は解決される。しかし、ボランティア活動をする人材の供給源は地域であり、学校や教育活動に協力的な地域の教育的風土が、コーディネーターの課題を解決することに気がつく。そのことは、青森県のデータでも顕著に現れている。

両県とも成果の中に地域の教育力の向上や「地域」というキーワードが頻出している。学校を支援するためのボランティアをサポートする地域コーディネーターにとって、最も重要な課題が地域の教育的風土の形成、地域の連帯感の形成、まちづくりにあることがこの調査から明らかになっている。こうした地域コーディネーターは地域の学び会やコミュニティの形成に貢献し、そのことが学校支援ボランティア推進上の課題を解決するのである。

IV 提言

これまでも学校支援ボランティアは全国で広く展開されてきた活動である。これらをコーディネートしてきたのは、多様な存在である。教育委員会は制度ととして「まちの先生」や「人材バンク」、「ボランティア保険」「ボランティア研修会」などのしくみや事業を整えてきた。狭山市や八戸市に見られるように市が独自に学校支援ボランティアセンターを設置する動きも見られている。同時に横浜市や三鷹市など都市部では民間団体による学校支援ボランティアコーディネーション組織が活動するようになった。

しかし、現実のほとんどは学校現場の教員がそのコーディネートを担当してきた。ボランティアで来てもらえる地域住民を探し出し、交渉し、打合せをし、授業を行っていたのである。教員の意識はどれほど改革されようとも、このような時間を生み出すことは現在の学校では困難であることは自明のことである。平成 17 年度に調査した「学校支援ボランティアに関する調査研究」によれば、教員は、学校支援ボランティアの受入れの充実のために必要な条件として、「学校支援ボランティアとのコミュニケーションの場や手段」と「コーディネーターの配置」が多くあげられている。「コミュニケーションの場や手段」は、コーディネーターの配置によって解決する課題である。

平成 20 年度から開始された「学校支援地域本部事業」は、こうした期待に応える施策として、大きな役割を担っている。コーディネーターの配置に予算措置がなされたことによって、飛躍的に学校支援ボランティアは進展するものと考えられる。

そこで今年度の調査報告にあたっては、コーディネーションの在り方と学校の受け入れ基盤整備の 2 点について具体的な方策について提言することとしたい。

本調査での結果と分析・考察から、次の点について提言しておくこととしたい。

1 コーディネーションの在り方

(1) コーディネーターよりもコーディネーショングループへ

学校支援地域本部事業では概ね複数の地域コーディネーターが配置されているが、地域コーディネーションの具体的な活動を聴き取っていくと、コーディネーターだけでなく、窓口となる教頭・副校長や担当教員、地域協議会のメンバーなどの関係者とのコミュニケーションによって、コーディネートされていることがわかっている。そこで、コーディネーションはコーディネーターが中核となっても、それらを組織的に支援するしくみを整備する必要がある。例えば窓口となる担当教員（社会教育主事有資格者が望ましい）、地域協議会役員、PTA 役員など 5～6 名によって構成されるコーディネーショングループを組織し、コーディネーターの必要に応じて招集し、打合せができるような体制整備をしていく必要がある。